

校長室から応援メッセージ⑥

令和3年11月19日（金）

「あなたはあなたの努力をすればいい！」

皆さん、こんにちは。11月も半ばを過ぎました。皆さんのこれまでの努力に敬意を表しつつお話し申し上げます。努力の成果は、わずか数時間で終わる試験の合否にその全てが示されるのではない、という話です。もちろん志望校合格が最も大事なのですが、合格を目指してする勉強自体に本当に大切な意味があるのですよ、という話です。

私たち人間は、何かに向かって努力し格闘する中で、自分でも思いがけないほどの豊かな力を有していることをあらためて自覚することができます。人間であることを限りなく超えていこうとすることこそ真に人間的な営みなのです。ひたすら努力するという点において私たちは人間的であるということです。そのため受験に向けての勉強は、ただする勉強ではなく、「必ず合格するぞ!」と必死で取り組む勉強でなければなりません。

私は毎朝、NHKのBSで放送している「マー姉ちゃん」を見ています。漫画『サザエさん』の作者長谷川町子さんの姉のマー姉ちゃんが主人公です。マー姉ちゃんは美術学校を目指していますが、仲間との競争を意識して緊張しがちになります。そこでお母さんが言います。「人は関係ありませんよ。あなたはあなたの努力をすればいいのです!」。

「あなたはあなたの努力をすればいい!」。この「いい!」とは、努力した結果がダメだったらそれは仕方がない・・・、そんな「いい!」ではありません。絶対的な「いい!」です。絶対的な「いい!」とは、どんな結果であっても、その結果よりも大切なものがあるのですよ、という意味に私は解釈しています。努力に努力を重ねた人には、そこに何かがあります。時にそれは、望んだ結果よりも大切な何かではないかと思えます。

これは余談ですが、トンカツが大好きな私は先日、トンカツ屋に行きたかったのに、一緒にいた友人が焼肉だと言い張り、チャンスを逃しました。願いは叶いませんでしたが、ますます大きくなったトンカツに対する欲望は、生きる力となって今の私を支えています。的外れな例示で説得力がありませんが、補う何かの実現するのだ、と言いたいのです。

目標に向かって私たちはがんばりますが、目標の実現ばかり考えていると不安はどんどん募ります。人生、出たところ勝負です。勉強に熱中し過ぎて、いつの間にか試験が終わり、いつの間にか合格していた、となれば最高ですが、その勢いでどんな結果も受け入れるのです。希望する道ならその道を堂々と行けばいい。希望叶わず一旦道を見失ったように感じてもそれは一瞬のことで目の前にはサッと新しい道が開けます。新しい世界とそこにいる新しい自分。それはドキドキ、ワクワクする経験の始まりだと思えます。

山梨予備校は大学合格を目指して学ぶ場ですが、学ぶことを入試当日まで大事にする学校でありたいと思えます。受験勉強は、生きることそのもの、人生そのものです。私は、自分が予備校生だった頃とその後の人生を振り返り、心からそう信じています。皆さん、不安が一杯詰まっている心は空っぽにして、一方、頭の中は英語の単語や構文、数学の公式、歴史の年号で一杯にして、ここから入試当日まで駆け抜けてください。私は、どこにあるのか皆さんはきっと知らない校長室から静かに皆さんを応援したいと思えます。